

三月四日中書右丞相安童奏。霍木海呈。中統四年奉命總管諸路站赤。至元元年改革漢站。令各路管民官掌管。霍木海提領使臣起數。鋪馬強弱。勾當事理似不歸。誠恐兩耽。臣等議得。止合依至元元年定制。上從之。

と見えて居る。同書站赤一によれば中統四年霍木海が達魯花赤として諸路站赤を總管した。元史世祖紀にも

中統四年八月戊申朔詔。霍木海總管諸路驛。佩金符。

とある。この中統四年に霍木海に任じた事項の中で、漢站の管轄だけを各路の管民官の手に移し、霍木海は使臣の起す數や鋪馬の強弱を提領することになったのが至元元年からのことである。尤も中統四年には霍木海はたゞ諸路の站赤を總管したと記されて居るだけであるけれども、至元元年の改制から考へて見れば、無論中統四年に於ても霍木海は中央に在つて、諸路の站赤の總管と共に、使臣の起數や鋪馬の強弱をも掌つて居つたに相違ない。この霍木海一人に任されてあつた站赤に關するすべての管理が二つに分れて、至元元年に各路の管民官と霍木海との手に分掌されることになつたので、その後四年を経た至元五年に至つて、これを一に歸せしめたい希望から、前記霍木海の呈請となつたものである。併しながらこの時にはこゝに見えるやうに、中書右丞相安童等の議に依つて、依然として中統五年即ち至元元年の制に従はしめることとなり、霍木海の希望は容れられなかつた譯である。

上述の如く中統四年以來霍木海は諸路の站赤を總管したり、或はその一部の事務を掌理してゐたのであるが、然も如何なる名義に於てその任務に當つたかは詳らかでない。然るに至元七年十一月九日に至つて、初めて諸站都統領使司という官衙を立て、兀良哈解・斡脫哥・霍木海の三人に命じて、站赤一切の整治に當らせることとした。即